



三木露風 未来への遺産

— 童謡の里たつのとともに継承 —

三木露風(1889年～1964年)の生誕地たつの市に童謡「赤とんぼ」の歌碑が建立されて60年を迎えた。
また、作曲者の山田耕筰(1886年～1965年)が没して60年になる。

露風は北原白秋と並び「白露時代」と呼ばれ大正時代の代表的な詩人となり、詩、短歌、俳句、童謡、小説、随筆、紀行文、詩論、評論、キリスト教関連文など多くの作品を残している。

しかし現代における露風は、童謡「赤とんぼ」の作詞者として知られているが、その作品へ関心を寄せる愛好者は少ない。また露風の研究は象徴詩と童謡を中心に盛んであったが、近頃では研究者も減少しているのが現状である。

その要因としては、例えば刊行された作品集が少ないこと、作品が教育現場で十分に取扱われていないことなど、露風や作品を理解する機会が少ないことがあるといわれている。

これまで多くの方が露風に関する資料や情報の収集と保存、研究、普及事業や顕彰、人材育成など多岐にわたって活動を続け情報を発信しているが、その問題の解決には至っていないように思われる。

本シンポジウムは、露風の残した多くの遺産をどう未来に活かすべきかについて多様な視点から考え、露風に関する機運を高めていくことを目指し、露風の生誕地・童謡の里たつのから発信することを目的とする。

シンポジウムプログラム

司会：高 綱 博 文

日本大学 名誉教授
三木露風研究会会員

13：30～13：35

松 尾 壯 典 霞城館長
開会挨拶

13：35～14：05

近 藤 健 史 元日本大学教授
〔基調報告〕「三木露風の遺産と研究」

14：15～15：15 【パネルディスカッション】 コーディネーター 近 藤 健 史 元日本大学教授

テーマ 現状と提言 三木露風の未来への遺産をどう継承するか

14：15～14：30 パネリスト報告① 瀧 口 節 子 碧川かたを朝ドラの主人公にする会 発起人代表 「赤とんぼよ永遠に」

14：30～14：45 パネリスト報告② 楠 田 真 たつの市立揖保川図書館長 「デジタル時代における郷土文学振興」

14：45～15：00 パネリスト報告③ 和 田 典 子 元姫路大学教授 「赤とんぼの歌曲碑を巡って—三木露風の理解者たち—」

15：00～15：15 パネリスト報告④ 白 石 愛 子 姫路大学准教授 「歌い継ぐ三木露風の童謡」

15：15～15：20

歌：白石愛子 ピアノ：山本千紗
姫路大学准教授 姫路大学准教授
露風の童謡を唄う

15：25～15：55

〔ディスカッション〕

15：55～16：00

主催者 近藤 健史 元日本大学教授
閉会挨拶

「赤とんぼ歌碑」 建立60年記念企画展

三木露風と「赤とんぼ歌碑」

【場 所】霞城館・矢野勘治記念館 【日 時】10月25日(土)～12月14日(日) 開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)
【入館料】一般200円 小～大学生・65歳以上100円 【休館日】月曜日 11月4日(火)・5日(火)・25日(火)・26日(水)
(11月3・24日は開館)
(※市内小中学生無料、ひょうごっ子こころんカード提示で無料)